

至仏山-越後駒ヶ岳縦走報告

2010年5月1日(土)ー5日(水)

M4 只左一也

0日目：上野駅→(JR鈍行)→水上駅(駅で仮眠)

1日目：水上駅→(バス)→湯ノ小屋→
ホタル池付近(幕営：C1)

2日目：C1→笠ヶ岳→至仏山→岳ヶ倉山→スス
ヶ峰→白沢山手前のコル(幕営：C2)

3日目：C2→平ヶ岳→剣ヶ倉山→滝ヶ倉山
→にせ藤原山→藤原山→大水上山→丹後山→避難小屋(小屋泊)

4日目：避難小屋→大水上山→兎岳→
→中ノ岳→越後駒ヶ岳→駒ノ小屋(小屋泊)

5日目：駒ノ小屋→小倉山→駒の湯温泉→
大湯温泉→(バス)→小出駅→(JR鈍行)→新宿駅

4日目(5月4日(火))

起床	03:00	
避難小屋		05:20 発
大水上山	06:10 着/発	
兎岳	06:50 着/発	
小兎岳	07:30 着	07:40 発
最低鞍部	08:20 着/発	
中ノ岳	10:30 着	10:50 発
1901m地点	11:40 着/発	
1866m地点	12:30 着	12:35 発
天狗平	14:30 着	12:00 発
越後駒ヶ岳	16:00 着	16:15 発
駒ノ小屋	16:30 着	(小屋泊)

(歩行時間：約10時間)

置いてあった毛布をありったけ使って寝たので、暖

かくて熟睡できた。苦勞して入口を開けた甲斐があった。しかし、小屋に入った後氷を溶かして大量に水を飲んだのだが、それでも水分が足りなかったようで、朝起きてみると体がからからで干上がった感じだった。それに、全身が疲れて鉛のように重く、ついだらして支度に手間取り、出発は5時半近くになってしまった。

この日も天気は悪くない予想だったが、前日までの3日間と比べて雲が多い。

小屋を出てすぐ、写真を撮ろうとカメラを構えたら、画面の中に大きなごみが写っているのに気づいた。レンズの中にごみが入り込んでしまったようで、前日までに撮った写真を見ると時々ごみが写ってしまっていたのはショックだった。もう1台の予備のカメラに代える。

大水上山まで、ほとんど平坦な道を引き返す。途中、前日には気づかなかったが、利根川水源の碑が、雪の中から覗いていた。大水上山ピークからわずかに下り、そして兎岳(1926m)の緩やかな登りとなる。疲れていたが、なかなか良いペースで登り、40分でピークに到着。ここから荒沢岳へ続く尾根が分岐しているが、荒沢岳方面に新しいトレースがついていた。奥只見湖から荒沢山に登り、兎岳～中ノ岳～八海山という縦走が面白そうである。

兎岳山頂から中ノ岳へ続く尾根を西に下る。ここからは小さなアップダウンを繰り返す。左手には、三国川(さぐにかわ)の谷を挟んで、巻機山が大きい。巻機山の山頂部分だけ日が当たっているようだった。空全体が曇ってはいるが、時折青空が覗き、雪で覆われた周辺の山々に日が差し、幻想的な景色を造り出す。

中ノ岳手前の鞍部からはかなりの急登となる。藪も危ないところもないが、この朝は気温が下がらなかったためか雪が緩くて歩きにくく、腿までズボッと潜ることが多く、ペースが落ちる。西側に張り出している雪庇は身長よりも深いクレバスがあちこちに口を開けている。少し歩いては立ち止まって休み、周囲の景色を楽しみながらゆっくりと上っていくと、2時間ほどで三国川のダムに下る尾根との分岐となる。かなり急な尾根である。トレースがたくさんついていた。

分岐のすぐ上で、この日初めて人とすれ違った。西側の尾根から駒ヶ岳に登り、縦走してきた単独行の人で、分岐から三国川に下るといふ。ゴールデンウィー

ク中だというのに、人にまったく会わなかったと言う。私もこの日は駒ヶ岳山頂までこの人以外には全く出会わなかった。

次第に傾斜が緩くなり、10時半、広々とした中ノ岳山頂に到着。駒ヶ岳がぐっと近づいた。西の八海山も大きい。20分ほど眺めを楽しみ、駒ヶ岳へ向けて出発。

小屋を過ぎるとやせ尾根の下りになる。しばらくは安定した雪庇で快適だったが(と言ってもときどき腿までもぐるのはかなり不愉快だったが)、1901mの小さいピークを過ぎるとさらに尾根がやせて、雪庇がクレバスだらけで歩けず、藪こぎが増える。1866m地点からは檜廊下と呼ばれる両側が切れ落ちたやせ尾根になる。雪の上は全く歩けず、ここは一般の人が歩ける登山コースなのだが夏道もほとんど崩れた雪庇のブロックが乗っかっているので、藪こぎになる。樹木が立派で枝もしっかりしているので、脚が疲れきっていた私にとって、腕が使えるのは逆に有難かった。左手には、谷を挟んだ向かいの八海山がどっしりとしていて素晴らしい。八海山からは雪崩の音が頻繁に聞こえてくる。

天狗平を過ぎると、駒ヶ岳の山頂近くまで夏道の部分だけ雪が溶けていたので、アイゼンを外して夏道を歩く。この時間になって青空が広がり出し、日が差し始めた。次第に高度を上げ、グシガハナへ向かう西尾根との分岐に近くなると尾根が広がって再び雪上歩きとなる。越後駒ヶ岳山頂は目の前である。

傾斜がさらに緩くなり、午後4時、目標の越後駒ヶ岳山頂に到着！東の方は山頂から続く尾根の先には、毛猛山塊が霞んでいる。やはりここまで北上して来ると、豪雪地帯だけあって、尾瀬とは比べ物にならないくらいたくさんの雪が残っている。

駒の小屋のほうから、山スキーの5人パーティーがスキーを担いで登ってきた。地元の山岳会らしい。この日、泊まる予定の駒の小屋は、この5人パーティーだけのようである。

山頂で景色を楽しんでから、山頂のすぐ下にある小屋まで、広大な斜面を下る。私が歩いている横を、5人が次々と楽しそうに滑っていく。

小屋の前に水がザバザバ流れていたのはうれしかった。彼らは狭い1階に陣取っていたので、私は2階に上がった。毛布もマットもたくさんあり、他に誰もいないので、遠慮なく使わせていただいた(ここは避

難小屋だが大変良く整備されている。協力金2000円を払う)。

一人で食事の準備をしていると、山頂で私に人懐っこく話しかけてきた中年の男性が2階に上がってきて、担いで上がってきたビールを下さると言う。しかし、私は大汗をかいて山を歩いた後で酒を飲むと必ずひどい頭痛になって、いままで何度も失敗したので、ご好意に感謝して丁重にお断りしたが、なんだか申し訳ない気分だった。

あとは麓まで下るだけである。(雪道の下りは快適だろうと楽観的な気分になっていたため、翌日、道を間違えてしまった…)今回の縦走をほぼ達成した気分、満足感に浸って暖かい毛布にくるまり、快適な最後の一夜を過ごした。



この日は朝から雲が多かった。中ノ岳を目指して出発。



南の巻機山



平坦な道を大水上山まで戻る。



利根川の水源であることを示す碑。



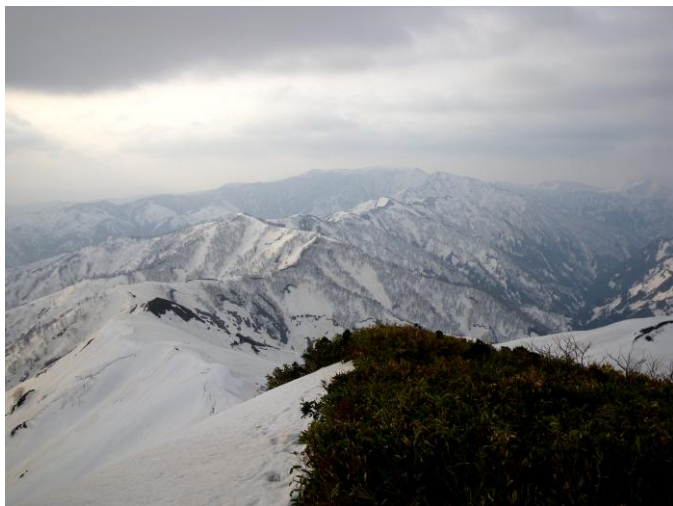
左は兔岳。右の小ピークが大水上山。



昨日歩いた平ヶ岳(中央)～大水上山の尾根。右端は至仏山。



大水上山まで戻った。



平ヶ岳方面



山頂から中ノ岳(左)と越後駒ヶ岳(右奥)。



兎岳の登り。なだらかで歩きやすい。



兎岳から荒沢岳(中央左)へ続く尾根が分岐する。トレースが見られる。



兔岳の北西の尾根を下る。



中ノ岳手前の鞍部まで小さなアップダウンがいくつかある。

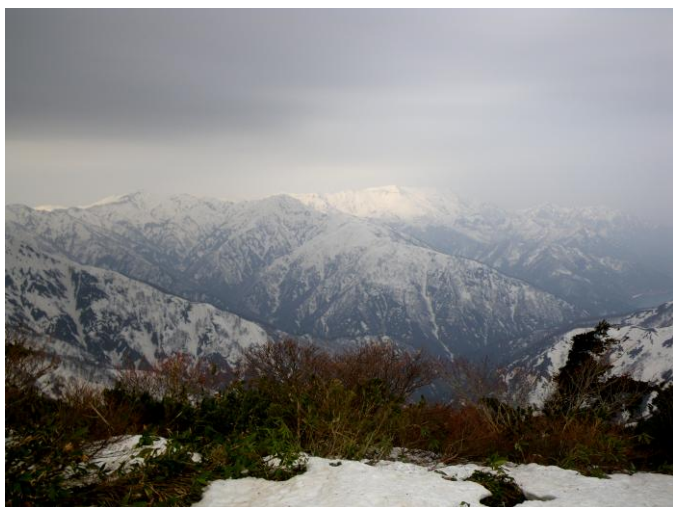


荒沢岳





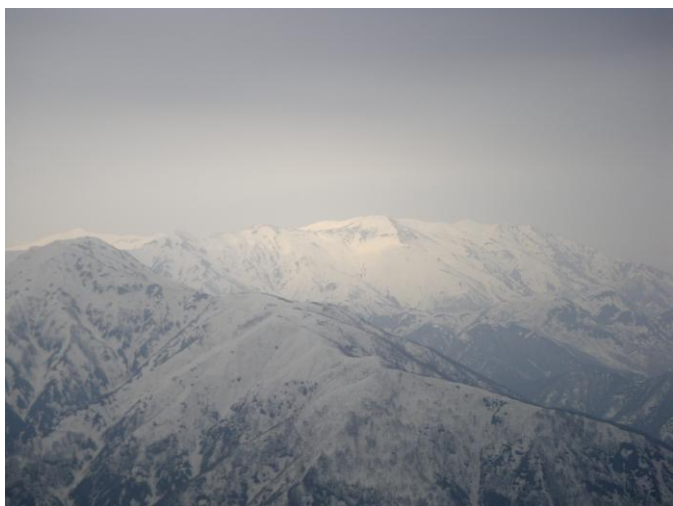
東の眺め。正面は荒沢岳。



南の眺め。巻機山の山頂付近だけ日が差して輝いている。



鞍部から、中ノ岳山頂まで急登。写真の印象よりも実際の傾斜はきつい。



時折、青空がのぞく。



兔岳の方を振り返る。



中ノ岳山頂(2085m)。越後三山の一つ。



山頂直下。



山頂は結構広い。向こうの山は越後駒ヶ岳。越後三山の一つ。



西には八海山。これも越後三山の一つ。



東の荒沢岳も立派。このあたりは良い山が本当に多い。



この避難小屋もしっかりしている。



この日の目的地、越後駒ヶ岳を目指して出発。尾根はまっすぐ北に向かう。



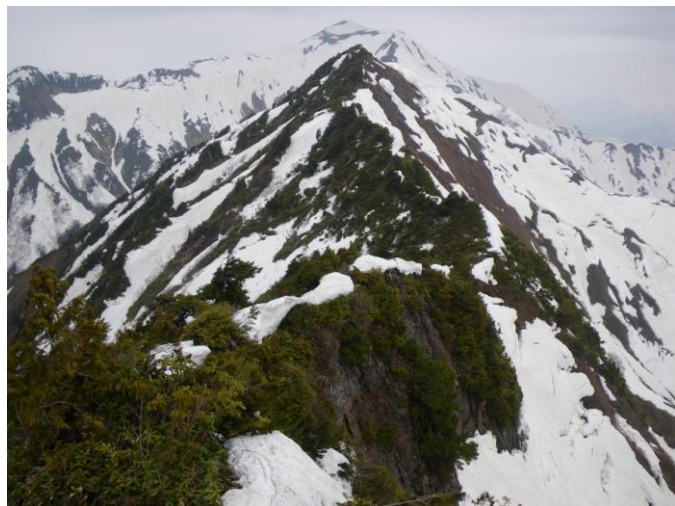
中ノ岳から見る越後駒ヶ岳は素晴らしい形をしている。



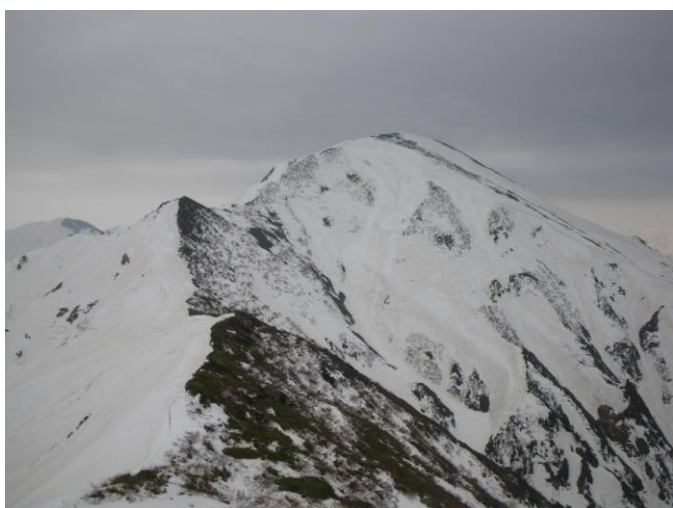
北西の眺め。遠く毛猛山塊が霞んで見える。



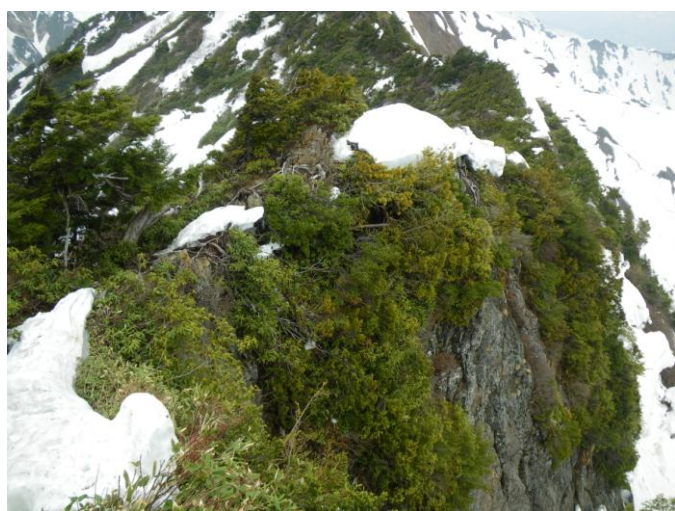
中ノ岳～越後駒ヶ岳の尾根は小さなアップダウンが多く、けっこう時間がかかる。駒ヶ岳の手前のピークが 1866m 地点。その向こうは檜廊下。



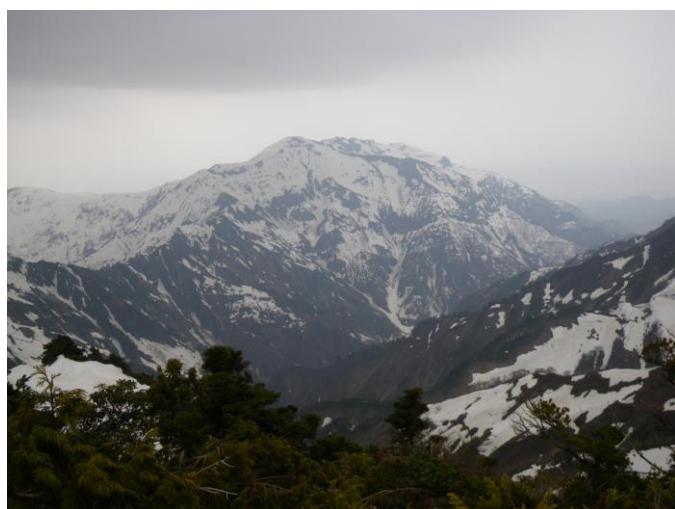
東側は切れ落ちている。このあたりはずっと藪こぎ。



1866m 地点から中ノ岳を振り返る。中央やや左の小ピークが 1901m 地点。



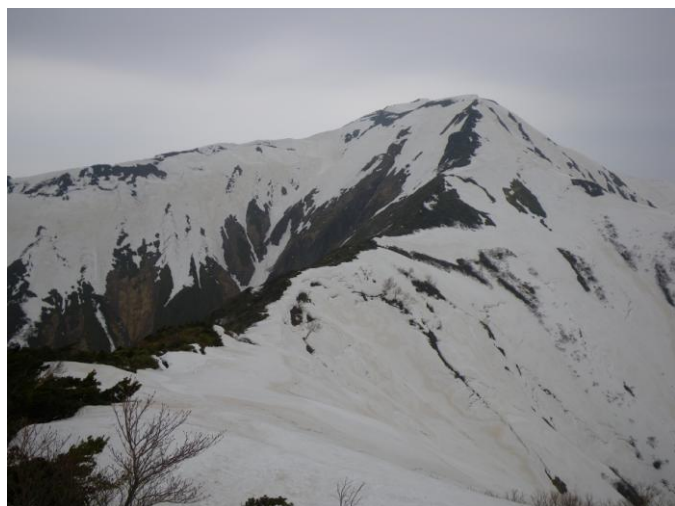
1866m 地点から天狗平まで檜廊下の痩せ尾根が続く。



西の眺め。どっしりとした八海山。八海山の方から時々雪崩の音が聞こえてくる。



このあたりは雪庇が残っていてもクレバスでずたずたなので歩けない。ずっと藪こぎが続く。



割れた雪庇の上に比較的新しいトレース。割れたばかりのようだ。



北上を続けていると、藪こぎから解放され、しばらく進むと雪が溶けて夏道がむき出しになっていた。



ここは尾根の雪が完全に溶けている。



天狗平。



再び雪の上を歩くようになる。



駒ヶ岳から西に延びる尾根。左のピークはグシガハナ。



荒沢岳から兔岳に続く稜線。



振り返ると、中ノ岳に薄日が差している。



山頂までもう少し。



西尾根との合流点。



山頂は目の前。右の斜面から、スキーを担いだ人たちが登って来ている。



午後 4 時、ついに越後駒ヶ岳山頂(2003m)に到着！
後は中ノ岳。



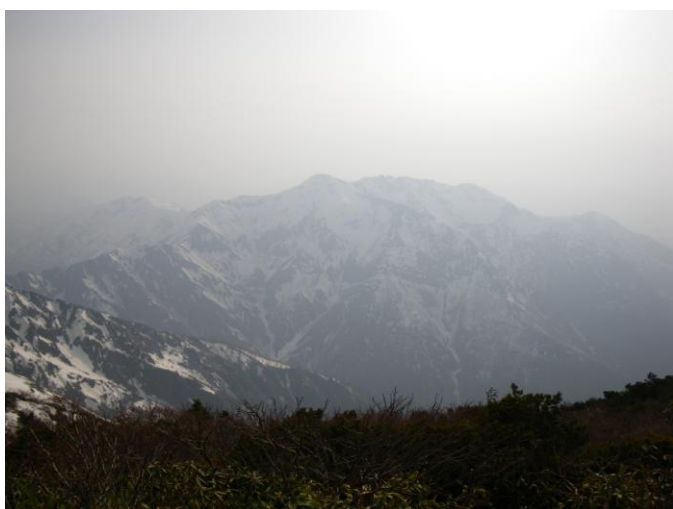
中ノ岳遠望



私は自分の写真はほとんど撮らないが、このときは嬉しかったので、スキーの人をお願いして撮ってもらった。



西の眺め。右は荒沢岳、左遠くに霞んで見えるのが毛猛山塊。眼下に見える駒ノ小屋が今夜の宿泊予定地。



八海山



駒ヶ岳から東に延びる尾根が毛猛まで続き、まだ厚い雪をまとった豪雪地帯の山並が春の霞の中に消えていく…。私のお気に入りの一枚。



駒ノ小屋に到着。



南の眺め。中央は兎岳。



小屋の前の水場は、雪解けの水がジャバジャバ流れている。



駒ヶ岳山頂に日が沈む。



きれいな駒ノ小屋の中。2階は私一人で貸し切りだった。